

ユゼフ・ピウスツキ 様々な肖像



パネリスト

伊東孝之
加藤有子
関口時正
吉岡 潤

ヤツェク・マルチェフスキ画 「旅団長ユゼフ・ピウスツキとニケ」 1916

もし何百年か後に、遺された履歴書を基にそこに記述された人間の存在について歴史家が判定するようなことがあったら——ピウスツキという人間はそもそも存在しなかったという結論に達するかも知れない。隷属状態に苦悩する一個の小さな民族を鼓舞しようとして、詩人たちによって拵え上げられた像に過ぎない、という結論に。(ボフダン・ウルバンコフスキ 1997)

9月30日、東京の市ヶ谷に集まり、ユゼフ・ピウスツキ(1867-1935)について話し合う、ささやかですが恐らく日本で初めての公開研究会を催します。目隠しが取れぬままに数人で——あるいはご参加いただける方々も含めれば数十人の集団で——象の体を撫でるのですが、象の形をまさぐる私たち自身相互には自由に眼もあけ、口も開くことで、それぞれが考えたこと、知っていることを「共有」し合いたいと思います。見る者の属した時代により、地域により、社会の階層やグループ、職種により、当然ながら文脈により、多様な異なりを見せるピウスツキの肖像をめぐり、今回はあくまで事始めとして、ポーランド語を用いて仕事をしているパネリストを中心にしながら、来場者の皆様のご指摘やご意見を交えて議論してゆきます。

2017年9月30日(土) 14:30~16:30
JICA 地球ひろば6階 セミナー・ルーム 600

新宿区市谷本村町 10-5 (JICA 市ヶ谷ビル内)

参加は無料ですが、jp@forumpoland.org までお申し込み頂き、お名前と読み仮名を(もしよろしければご専門やご関心領域も)お知らせ頂ければ幸いです。申し込みメールはお一人ずつお寄せ下さい。折り返し登録確認のメールを差し上げます。受付予定定員 50 名。

